

顔戸南木ノ下遺跡Ⅱ

GOUDO

MINAMIKINOSHITA

SITE

2000・1・31

長野県飯山市教育委員会

例 言

1 本書は、長野県飯山市大字寿字南木ノ下1352番地ほかに所在する南木ノ下遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘は、長野県飯山建設事務所が計画した一般県道飯山新井線の道路改良事業に伴い、飯山市教育委員会が同建設事務所より依頼を受けて実施したものである。

3 調査は、平成11年10月12日より同月20日まで実施した。

4 発掘概要は以下のとおりである。

調査面積 30m²
出土遺構 土坑2
出土遺物 石器片

5 発掘委託関係者（長野県飯山建設事務所）

発掘委託者	飯山建設事務所長	山岸 久一
協議関係者	同所建設課専門幹	田辺 芳昭
	同所主任	関 一規

発掘受託関係者（飯山市）

発掘契約受託者	飯山市市長	小山 邦武
発掘主体者	飯山市教育長	清水 長雄
発掘調査団長	市文化財保護審議会長	高橋 桂
事務局	市教育次長	石澤 雄司
	市生涯学習課長	平野 英孝
	社会教育係長	山室 茂孝
	係主査	伊達 信寿
	同	望月 静雄
	同文化財調査員	桃井伊都子

発掘・整理作業参加者

望月静雄・田村滉城（調査員）・高橋武・岩井伸夫・宮本鈴子・小林正子・
藤沢和枝

協力者 顔戸区（堀川義博区長）・蓮華寺

6 本書の図版作成・トレース・執筆・編集は望月・藤沢が行い、高橋団長が校閲した。

7 出土遺物・図面は飯山市埋蔵文化財センターで保管している。

I 概要

1 調査の経過

対象地区についての保護協議は、平成10年秋に飯山建設事務所、県文化財保護課、市教委の3者において協議が行われ、事前に飯山建設事務所の事業費負担で調査を実施することで合意されていた。ただし、工事予算の関係でいつ着工されるのか不明であったためその後の具体的な事務処理は行われずにきていた。

平成11年9月29日 飯山建設事務所からの要請で、市教委と現地において再度協議が行われた。予算が正式に決定することと、降雪前に調査を完了してほしい旨の依頼と、具体的な調査面積・積算についての依頼があった。調査面積については、対象面積が約100㎡であったが、石垣等屋敷跡でかなり地形の改変が行われていたことから、30㎡を調査することとした。

10月6日 飯山建設事務所長名で「道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査の委託について」(協議)の通知があり、予算額352,000円で同日付で契約の締結が交わされた。

10月12日 器材搬入。バックホーによる表土除去の後、ジョレンによる遺構確認調査。屋敷跡のためか近・現代の陶磁器が石垣周辺より多数出土。

10月13日 地山面と判断していた横褐色土は盛土と判明し、再度バックホーにより表土除去を行う。

10月14日・15日 雨天により作業中止

10月16日・17日 土・日により作業休止

10月18日 調査区をジョレン等により掘り下げる。遺構と思われるピット検出。

10月19日 バックホーによりさらに掘り下げる。上部に盛土があり、本来の地山面は緩く傾斜しているものと判明。石器と思われる石片検出。なお、ピットは民家の関係するものと判断された。

10月20日 全面清掃の後写真撮影、全体図測量を行う。器材搬出。午後器材の洗浄を行い現地でのすべての作業を終了する。

2 南木ノ下遺跡の位置

南木ノ下遺跡は、飯山市大字寿字南木ノ下に所在する。

飯山盆地西縁を区画する標高1000m内外の関田山脈は、斑尾山(1381m)を最高峰とし、黒岩山(938m)、鍋倉山(1288.8m)などの低山地が続いており、越後との峠道も峠道も数多く存在している。

遺跡の所在する飯山市外様顔戸地区は、これらのうち黒岩山の山麓にあり、平丸峠の道筋に存在している。地形・地質的には扇状地の扇央部に立地している。扇頂部には湧水が豊富であり、出口清水・腹薬清水などと呼ばれている湧出地がある。

遺跡の範囲は、周囲に民家が立ち並び明確ではない。現在最も明確に把握できる場所は、

蓮華寺境内前面の畑地であるが、地形改変も行われており遺跡の大半はすでに失われている可能性もある。

なお、蓮華寺住職の田村氏のお話によれば、この畑地において用水の暗渠工事中、土器や打製石斧、石棒などが出土したといい、そのうちの一点のほぼ完全な形の土器は田村氏が保管している(写真1)。

この土器は、縄文時代後期の堀ノ内式土器の浅鉢であり、表面・内部とも黒色である。



写真1 南木ノ下遺跡出土縄文時代後期の土器

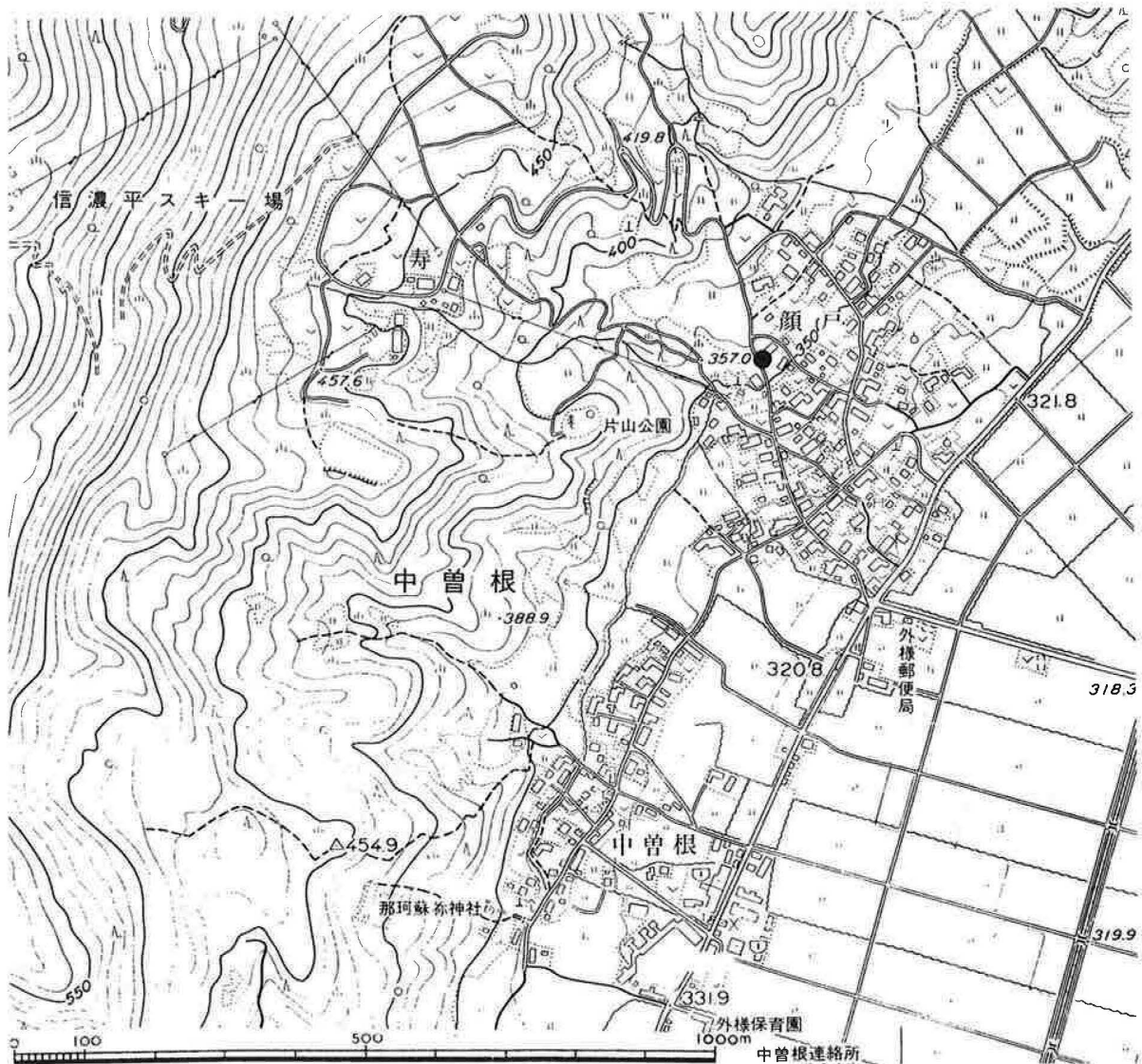


図1 南木ノ下遺跡の位置 (1/10000)

Ⅱ 調 査

1 従前の調査

南ノ木下遺跡の発掘調査は、平成9年10月に行われたのが最初である。それ以前では、I-2で触れたように工事に際して発見された程度のものであるが、この遺跡が公にされたのは1896年人類学雑誌12-128においてすでに遺跡名が記されているので、100年以上前より知られている遺跡でもある。以降多くの文献に記載されてきたが、それによれば、「縄文晩期前半土器・打製石斧・石皿・石鏃・石刀・弥生式土器（後期箱清水式）・磨製石鏃」等が発見されているとされている。それらの採集物は今日にほとんど残されておらず、わずかに土器一個体が蓮華寺に保管されているに過ぎない。したがって、本遺跡の詳細なことについては殆ど不明であるといわざるを得ない。

平成9年10月の調査は、今回と同様に長野県飯山建設事務所による道路改良工事に伴って実施されたものである。約200㎡を調査し、竪穴住居址1軒・柱穴（土坑含む）9基の遺構が検出され、遺物として縄文後期掘ノ内I・II式土器・同加曾利B式土器・土偶・叩き石・凹石・磨石が出土している。一部のみを検出であったが竪穴住居址が確認されたことは、この周辺が縄文時代後期のひとつの中心地であった可能性が高い。

なお、本遺跡の範囲についても詳細は不明であるが、周辺において住宅の改築等に伴う工事において遺物が発見されたことなどの情報や地形から概ね図2のような範囲になるかと思われる。



図2 南木ノ下遺跡の範囲

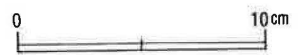


図3 南木ノ下遺跡出土資料 (1/3)

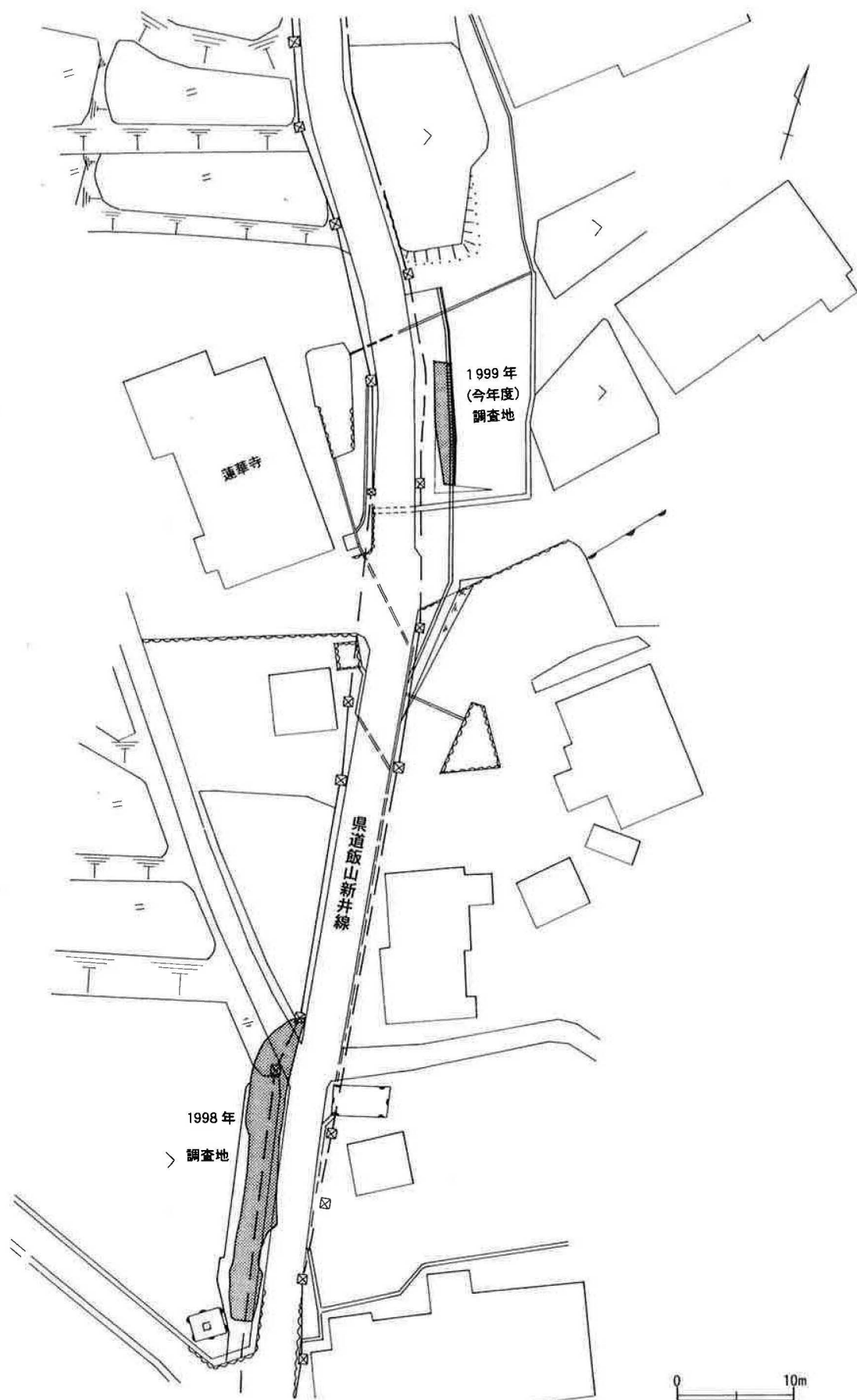


図4 調査区位置図 (1/500)

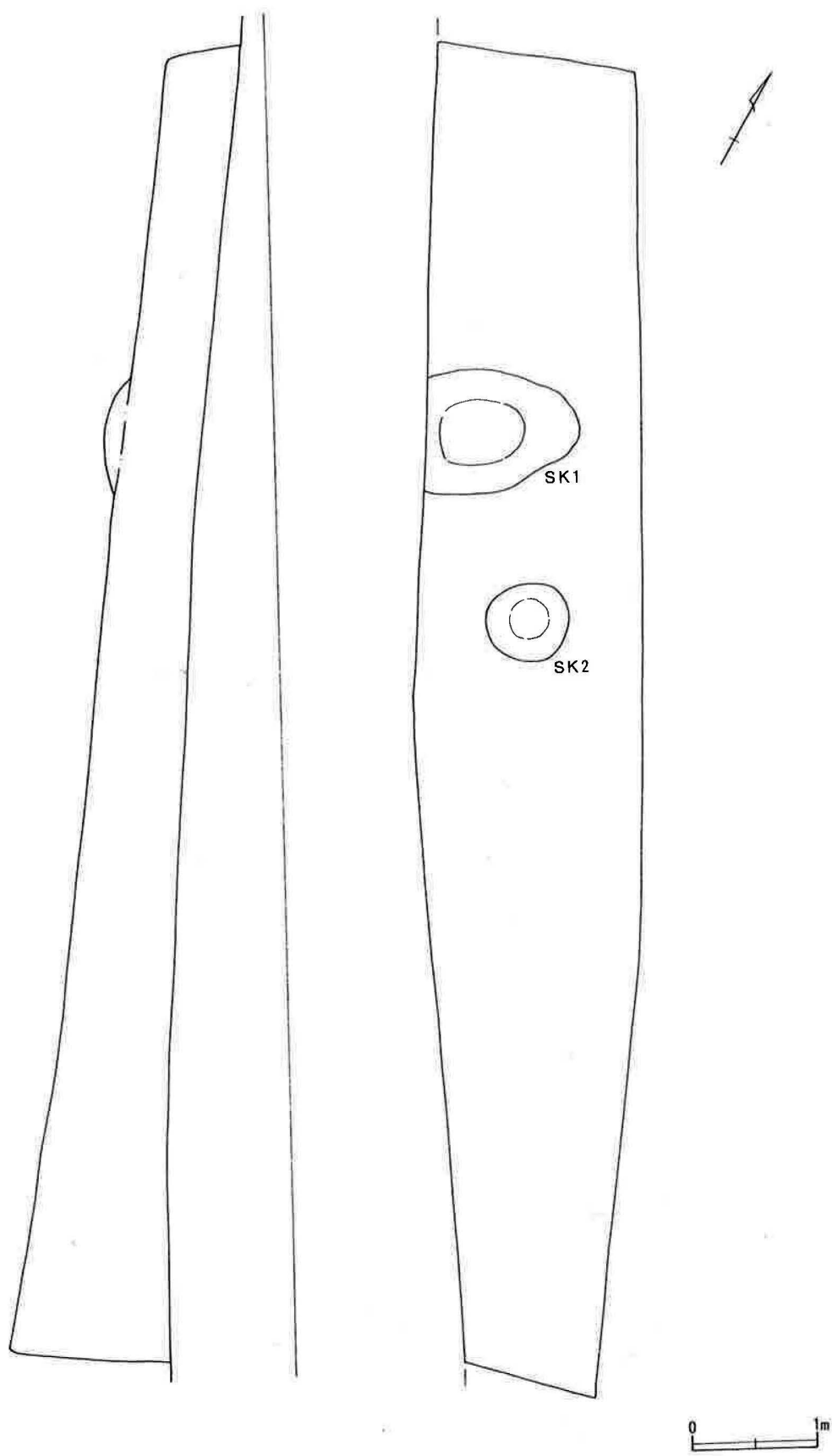


図5 調査区

2 遺構

今回の調査において発見された遺構は、土坑2基のみである。ただし、覆土の様子から近世ないしは近代にかけての遺構と考えられ、また、その用途についても不明である。

SK1 (図6 SK1)

調査区の西側、現道よりのところから検出された。推定140×100cmの楕円形を呈し、断面はすり鉢状である。遺物の出土はない。

SK2 (図6 SK2)

SK1の東南60cmに位置し、径約70cmのほぼ円形を呈する。比較的明瞭な掘り込みがあり、深さは20cmを計る。遺物は出土しなかった。

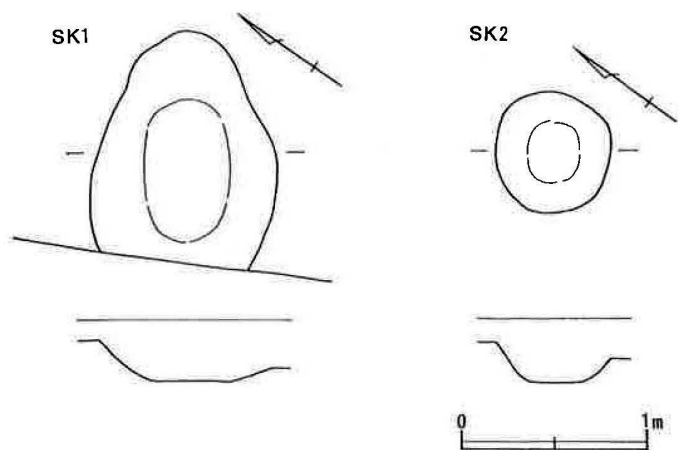


図6 遺構 (1/40)

3 遺物

発掘された遺物には、近世から近・現代にかけての磁器および石器片がわずかに出土した(図7・写真6)。磁器類は石垣の間に埋もれていたもので、当該場所に昭和40年代まで民家があったといわれており、それに付随したものであろうと思われる。

石器は、調査区内より散在的に出土した(図7-1~4)。このうち人工的な石器の可能性のあるものは1と2であり、3および4は明確な加工が認められないため自然石の可能性はある。

1・2ともやや幅広な剥片で、第1次剥離面を明瞭に残している。ただし、正面の剥離工程を見るに不規則な剥離面を構成しており、少なくとも旧石器的の加工技術とは認められない。3及び4は正・裏面とも加工の施されていない石片で、3には右側縁の裏面からの加撃および裏面から2回の加撃が認められるが、これは自然的なものと考えて差し支えあるまい。1・2を含め、いずれも安山岩である。

他に明確な石器が出土しないこともあり、これらの石器が石器として認められるのかどうか、当該地区の土層に安山岩の転石があるのかどうかを含めより詳細調査を行う必要があり、それをまっけて出土石器についてもう一度判断を行いたい。

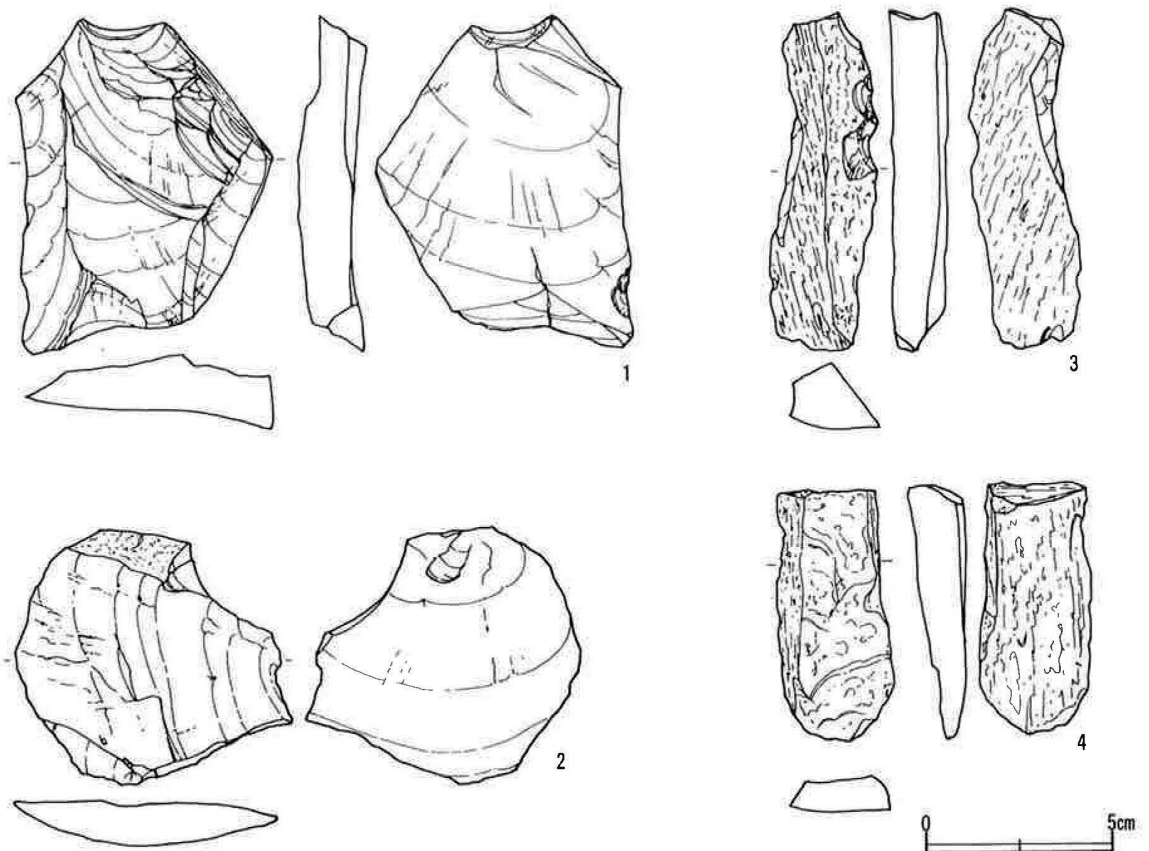


図7 石器実測図(1/2)

Ⅲ まとめ

南木ノ下遺跡は、古くから知られている遺跡にもかかわらず、その実態は不明の部分が大
きかった。しかし、平成10年・11年とわずかな範囲であったものの発掘調査を実施したこと
によって、その範囲や内容についても少しずつではあるが明らかとなってきた。

そのひとつとして、南木ノ下遺跡の範囲の上（西・北）限は、今回の調査を行ったあたり
だろうと推測されたことである。また、今回の調査では明らかな出来なかったが時期的には
縄文時代後期を主体とする遺跡であると思われること等である。

惜しむらくは、遺跡の中心部分がすでに民家によって破壊を受けている部分が大
きいと予想されることである。これからも改築や工事等が周辺で行われると思われるが、この南木ノ
下遺跡がより明らかにされることを祈りたい。

本調査では、参加された作業員の方々をはじめ、顔戸地区および蓮華寺には大変お世話に
なった。明記して心から御礼申し上げたい。



写真1 調査区近景（南から）



写真2 調査区近景（西から）



写真3 重機による表土除去

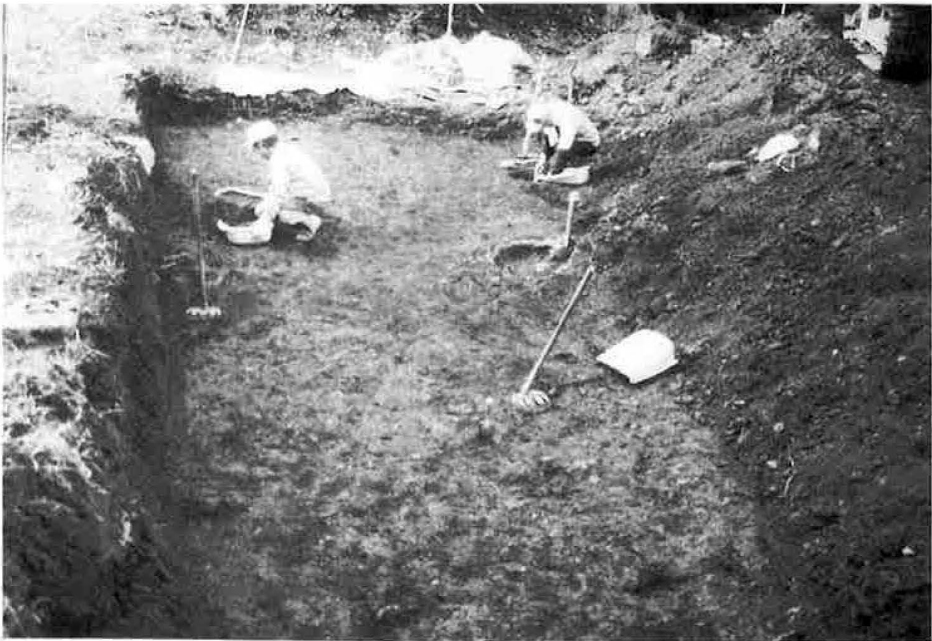


写真4 調査風景



写真5 調査完了写真

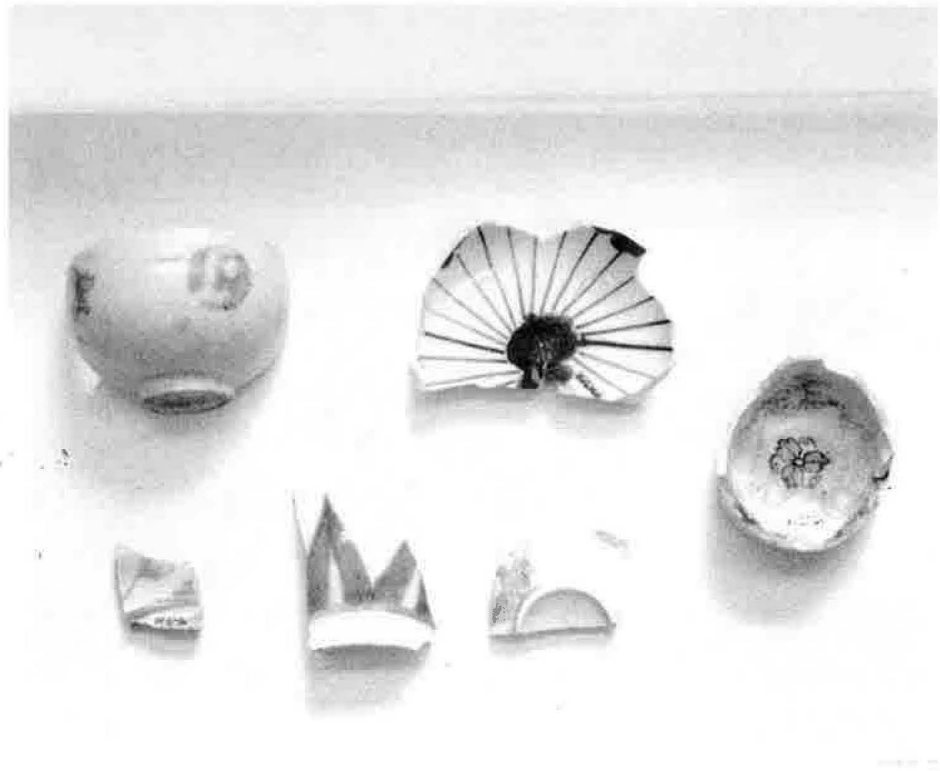


写真6 出土陶磁器

61-1

飯山市埋蔵文化財調査報告 第61集

顔戸南木ノ下遺跡Ⅱ

平成12年1月31日発行

編集・発行 飯山市教育委員会
長野県飯山市大字飯山1110-1、

印刷 (有) 足立印刷所